

## 令和3年度 ダイズ莢及び子実の被害調査結果

今年度の病害虫による莢及び子実被害は平年よりやや多くなりました。莢被害ではマメシクイガ、子実被害ではマメシクイガやべと病による被害が目立った一方で、吸実性カメムシ類による子実への被害は昨年度と比べ大幅に減少しました（図1、2）。

マメシクイガは子実に影響を及ぼし、品質・収量低下の原因となります。連作ほ場では発生が多くなりやすいため、被害が大きかったほ場では連作をさげ、水田との輪作を行ってください。

べと病は8月中旬の降雨により発病が助長されたと考えられます。本病の発病には品種間差があり、多雨年に発生が多くなりやすいため、多発生が予想される場合は、発生初期から数回薬剤散布による防除を行ってください。

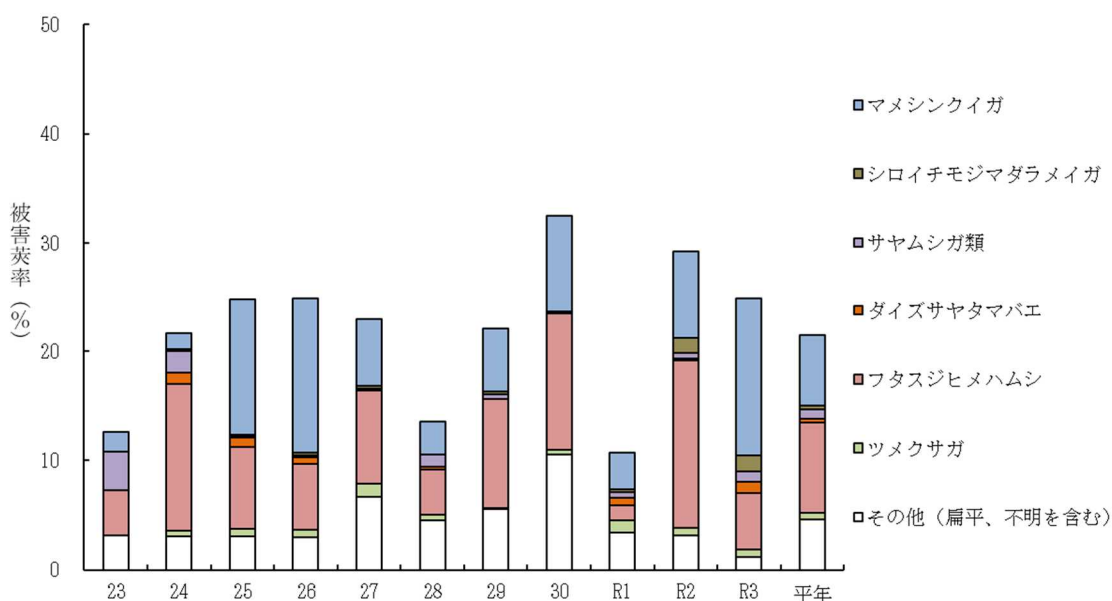


図1 原因別被害率の年次的推移

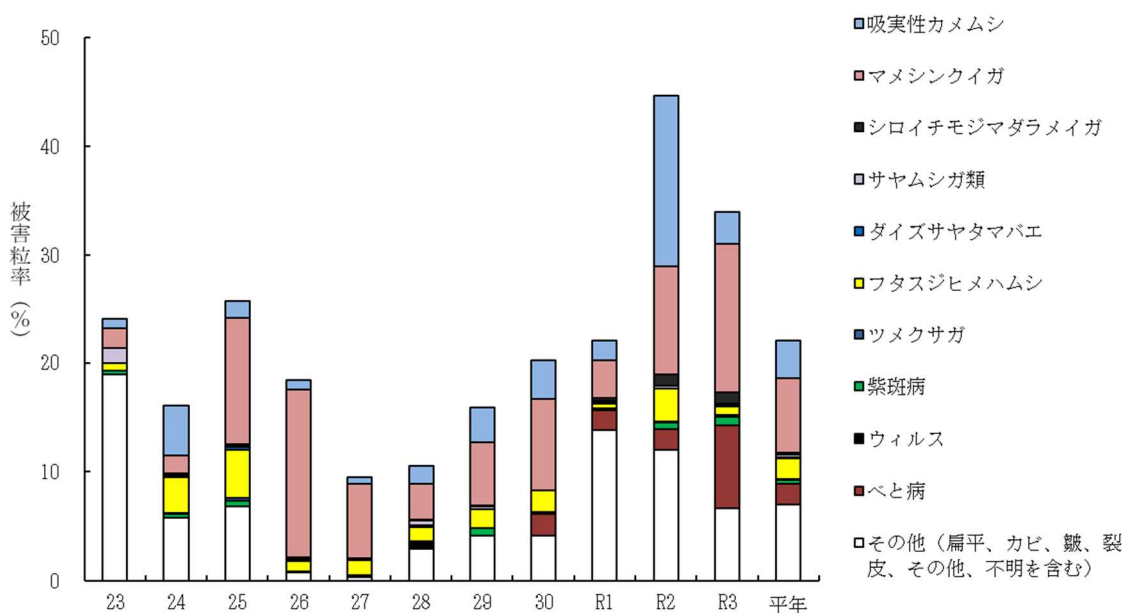


図2 原因別被害率の年次的推移

※令和3年度は9地点、36ほ場で莢及び子実調査を実施（10/18～10/21 試料採取）

※1ほ場当たり約100莢採取、全調査莢数3,637、全調査粒数7,871

### 1 吸実性カメムシ類

被害粒率は、中通り地域は平年より低く、会津地域、浜通り地域は平年並でした（図3）。

昨年度は特に県南地域で被害が目立ちましたが、今年度は防除を積極的に行ったこともあり、被害が大幅に減少しました。

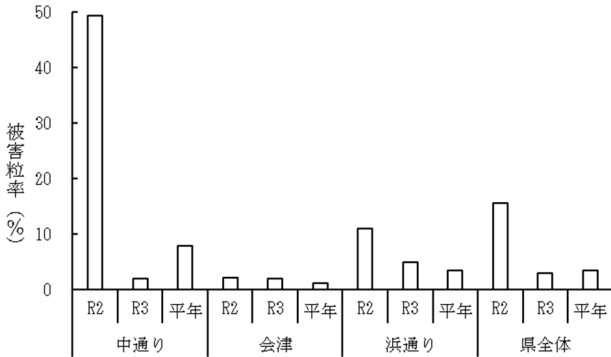


図3 吸実性カメムシ類による被害粒率

### 2 マメシクイガ

被害莢率、被害粒率ともに中通り地域で平年並、会津地域と浜通り地域で平年より高くなりました（図4、5）。

連作ほ場で発生が多くなるため、適期防除を心がけてください。

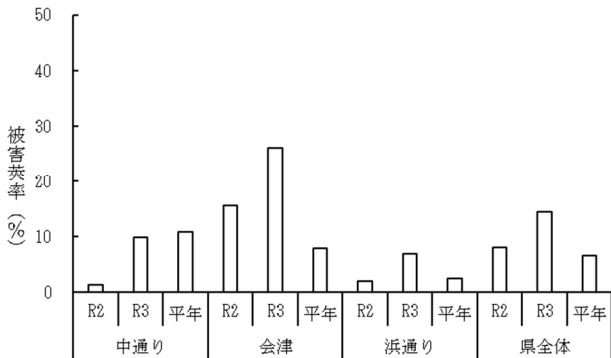


図4 マメシクイガによる被害莢率

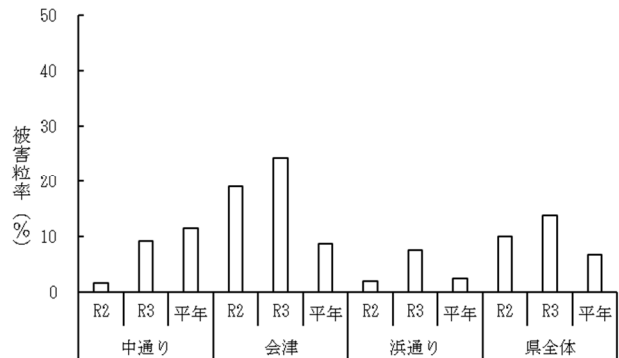


図5 マメシクイガによる被害粒率

### 3 シロイチモジマダラメイガ

被害莢率、被害粒率ともに県全域で平年よりやや高くなりました（図6、7）。

被害が大きかったほ場では、マメシクイガとの同時防除を行ってください。

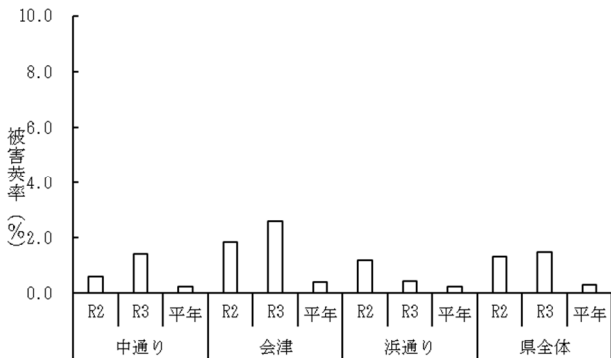


図6 シロイチモジマダラメイガによる被害莢率

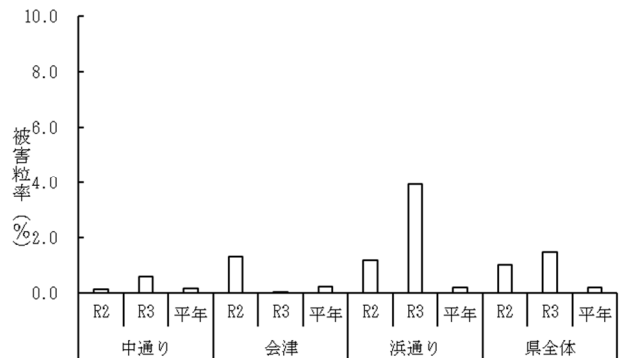


図7 シロイチモジマダラメイガによる被害粒率

#### 4 サヤムシガ類

被害莢率、被害粒率ともに平年並でした（図8、9）。

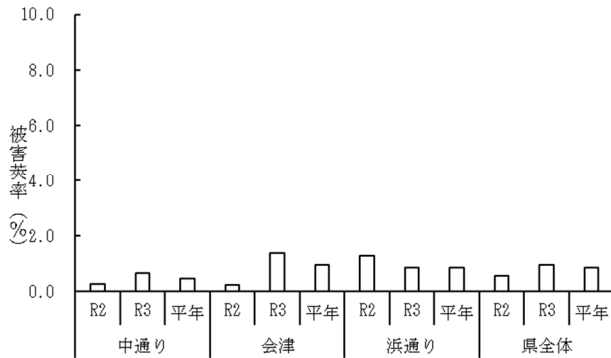


図8 サヤムシガ類による被害莢率

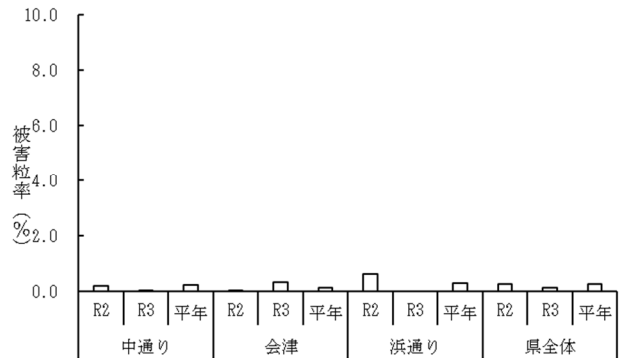


図9 サヤムシガ類による被害粒率

#### 5 ダイズサヤタマバエ

被害莢率は平年よりやや高くなりましたが、被害粒率は平年並でした（図10、11）。

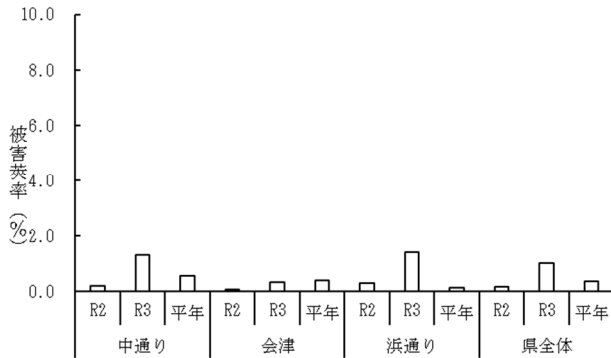


図10 ダイズサヤタマバエによる被害莢率

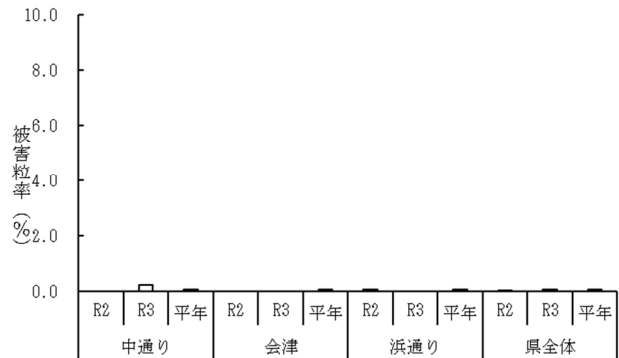


図11 ダイズサヤタマバエによる被害粒率

#### 6 フタスジヒメハムシ

被害莢率、被害粒率ともに平年よりやや低くなりました（図11、12）。

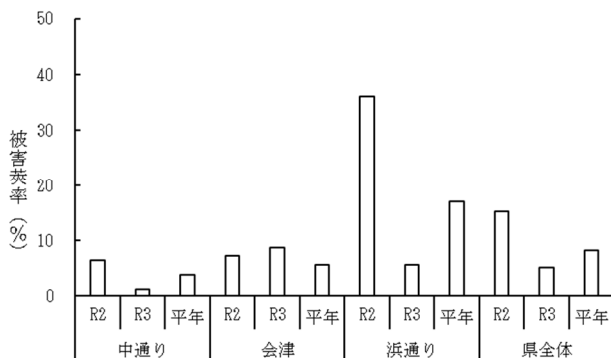


図11 フタスジヒメハムシによる被害莢率

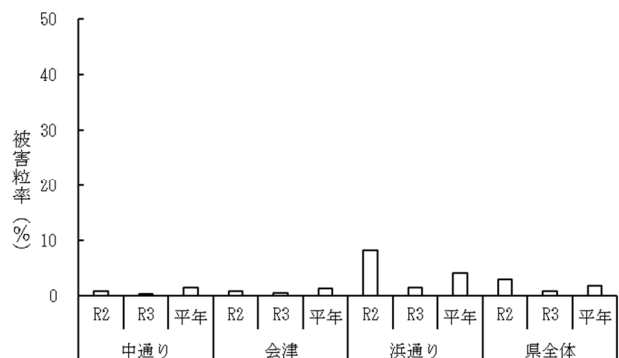


図12 フタスジヒメハムシによる被害粒率

## 7 ツメクサガ

被害莠率、被害粒率ともに平年並でした（図13、14）。

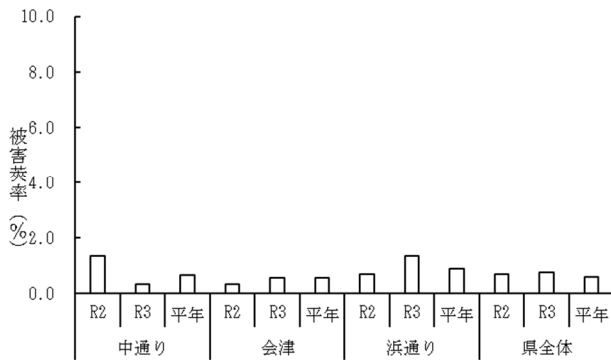


図13 ツメクサガによる被害莠率

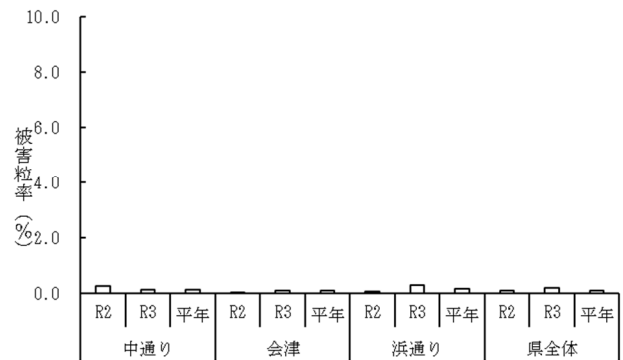


図14 ツメクサガによる被害粒率

## 8 紫斑病

被害粒率は中通り地域で平年より高く、会津地域、浜通り地域で平年より低くなりました（図15）。収穫が遅れると被害が大きくなるため、適期収穫を行ってください。

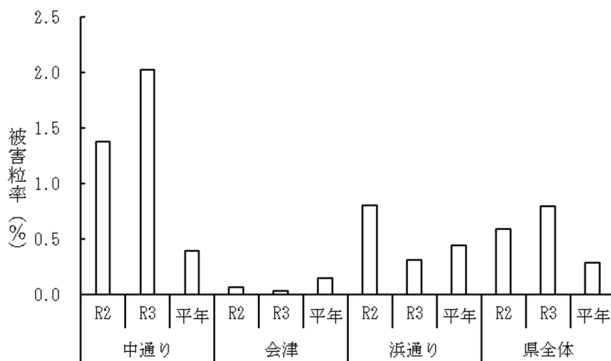


図15 紫斑病による被害粒率

## 9 ベと病

被害粒率は中通り地域、浜通り地域で平年より高く、会津地域で平年より低くなりました（図16）。多発生が予想される場合には、適期防除に注意してください。

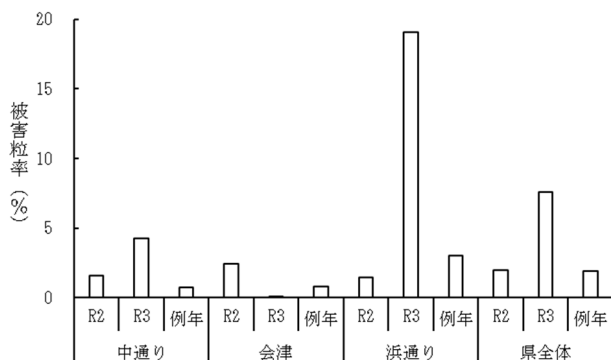


図16 ベと病による被害粒率

注) 本病による被害粒率の調査は平成30年度より実施